

反韓 呪術と 反日

但馬才サム

Osamu Tajima, presents
Kankoku Jujutsu to hanrichi



日韓関係は変態関係である

ゲル状の反日

韓国といえ、中国と並ぶアジア有数の反日国家であるの言うまでもありません。しかし、両国の反日はそのテイストが大きく違うような気がします。中国の反日はどこか政治的です。ひとことというなら、手段としての反日ということになります。尖閣諸島や教科書問題を巡る反日暴動にしても、それが反政府暴動に変貌しないように党本部が微妙な匙加減を加えていることはよく指摘されることです。暴徒の方も、半ばそれを承知の上で合法的に破壊行為を楽しんでるわけで、官製デモ、官製暴動と言われるゆえんでもあります。今後、政治的に利ありと判断すれば、(あくまで表向きにせよ)親日国に豹変することも可能性という意味からすれば、ゼロとは言いつれないのが、中国という国の不気味なところだと思います。文革時代、あれほどさまざまな焚書坑儒をやっておきながら、ロビー活動に「東洋の英知・孔子」の権威が利用価値ありと判断すれば、シラツとした顔して、孔子学院なるチャイナ・スクールを世界各国の大学に作るる国なのです。

一方、韓国の反日はもつと情念的で発作的、かつどこか生理的で粘っこい印象を受けます。中国の反日がドライなら韓国の反日はウエットです。夏の日の背中に汗で引つ付いたシャツの、あの感じ、と私は表現しています。さらりとはしていません。ゲル状です。

2013年(平成25年)2月、韓国大田^{テリョン}地裁が、長崎県対馬の観音寺から盗まれた仏像の返還を認めない仮処分決定を下しました。これなど韓国の裁判所による日本に対する嫌がらせにしか見えません。盗品の仏像はともかく、この裁判で彼らが得たものは何だったのでしょうか。観音寺住職を始め親韓派の対馬島民を怒らせ、交流イベントの中止を招いただけでなく、対外的には、韓国の司法はおよそ文明国のそれではないということを印象つけて終わりました。

もし、これが中国であつたなら、政治的に何の利益にもならないこんな子供じみた嫌がらせはしないでしょう。とりあえず、恩着せがましく仏像を返還したあとで、「日中友好」を名目に仏像の共同管理を持ち出すはずで。

これを見れば、韓国の反日がいかに非合理的で場当たり的であるかがわかります。どうやら、韓国は損得抜きで日本が憎いようです。それでいて、韓国経済は何から何まで日本に依存しなくなりというのだから不思議でなりません。

自動車、家電、造船、製鉄、現在、韓国が誇るこれらの産業は日本の技術指導がなければ成り立たなかったものばかりですし、工作機械や原材料ひとつとっても日本が輸出をストップしたら、韓国の工場は明日から閉鎖を余儀なくされるのです。韓国の生殺与奪を握っているのは、

日本であるといつても過言ではありません。

韓国はどうして、あれほど日本を憎みながらいざというとき日本の世話になろうとするのでしょうか。日本はどうして、あれほど自分に呪詛の言葉を投げかけ、ことあるごとに足を引っ張ろうとする韓国に対して甘い態度を取り続けてきたのでしょうか。インドとパキスタン、イランとイラク、イスラエルとパレスチナ、世界には地理的、歴史的にも関係が深くなおかついがみあっている国同士、民族同士の例は決して珍しくありませんが、たとえば、パキスタンがインドに対し技術支援をねだったという話は皆目知りません。日韓のようにギクシャクした関係を続けながら常にもたれかかっている二国というのが、むしろ珍しいのです。日韓のこの関係を論理的なロジックで解説していこうとしても、ますますドツポにはまるだけです。

「日帝36年」の印籠反射

多くの日本人は韓国人から「日帝36年」を持ち出されると、そこで思考停止してしまい、一歩も二歩も後ずさりし、相手のどんな理不尽も仰せごもつともというふうにひれ伏してしまうところがあります。その姿はまるで水戸黄門の印籠を見せ付けられた悪代官のようです。私はこれを「日帝36年」印籠反射と呼んでいます。

かつて「ここがヘンだよ日本人」という人気トーク番組で、西アフリカ・ベナン共和国出身のゾマホン・ルフィン氏（現・駐日ベナン国大使）は、小淵恵三総理（当時）が1998年10月、金大中韓国大統領（当時）との間で交わした日韓共同宣言に「過去の歴史の）痛切な反省と心からのお詫び」を入れたことを高く評価して、「日本は韓国を36年支配した。ヨーロッパ諸国はアフリカを700年も奴隷貿易と植民地支配で苦しめたが一度も謝罪したことがない。私は、日本は素晴らしい国だと思ふ」と発言しました。日帝印籠のフラッシュ効果が今とは比べものにならないほど有効だった時代だけに、彼のこの発言に胸のすく思いを感じた日本人も多かったでしょう。言いたくても言えないことをアフリカ人であるゾマホン氏が言ってくれたという思いです。

ところが、です。スタジオにいた韓国人の女性が立ち上がり、ゾマホン氏のこの発言にこう食ってかかったのです。

「10回レイプされた人（アフリカ）が、『あなた（韓国）はたった1回レイプされたただだから我慢なさい』と言っているようだ」。

この後、スタジオは韓国人、中国人、それにゾマホン氏の発言に同調する他の外国人の怒号が飛び交い、収集のつかない状況に陥っていました。

辛淑玉氏という在日朝鮮人（ご本人は韓国籍ですが、この呼び方にこだわりがあるようです）の女性が「朝まで生テレビ」に出演した際、スタジオ見学に来ている日本人大学生たちに

このような言葉を投げかけています。

「日本が強姦して生ませたのが在日朝鮮人韓国人です。それを認識しなさい」。

日本が強姦して生ませたなら父親は日本人ではないか？ という素朴な疑問はさておき、辛女史と先の韓国女性性の言葉は、日韓併合を強姦＝レイプに喩えているということでも共通しています。私は彼女たちのこの表現に、何となく釈然としないもの、いや、はつきり言えば、ある種の気持ち悪さを覚えたものでした。

この発言の約一年後、西村眞悟衆議院議員が「週刊プレイボーイ」（1999年11月2日号）のインタビューで、「国防とは（自国の女性性）他国の男に強姦されるのを防ぐこと」と発言、これが「女性の人權を公然と侵害する」ものと激しい抗議にあい、防衛政務次官を辞任に追い込まれることになるのですが、西村発言に対しあれほど反応した社民党の女性議員たちが、先の韓国女性二人の発言をどう思うのか一度伺ってみたいものです。

日韓併合をレイプに喩える韓国の特異性

韓国で現在ののような狂気的な反日が一気に加速したのは、初の文民大統領（それまでは軍事政権）である金泳三政権からと言われています。金大統領は併合時代の建造物や習慣を、日帝

残滓^{ざんし}として徹底破壊、排除する文化大革命を实行了しました。

まっさきに槍玉に挙げたのは、大は当時博物館として使用されていた旧総督府庁舎です。ゴチック建築の旧総督府庁舎に関しては、美的な観点からも歴史的建造物として保存すべきという声が韓国国内からも多数あり、保存派と撤去派でしばし論争になりました。撤去派の一人で作家の鄭雲鉉^{チョンウンヒョク}氏はこう言って撤去を主張したといっています。

《妻が強姦されて生まれた子供がいかに可愛くても自分の子供にすることができない。》（崔吉城^{チユキシキ}著「親日」と「反日」の文化人類学「明石ライブラリー」）。

「妻が強姦され生まれた子供」＝総督府を意味するのは言うまでもありません。彼の強姦発言が大勢に影響を与えたのはわかりませんが、総督府は取り壊しが決定し（1995年）、現在は跡形も無くなっており、尖塔部分のみ天安市の独立記念館に保存されています。

「妻が強姦された」というのですから、鄭氏の表現は先の女性二人よりも数段強烈ですが、これで驚くのはまだ早い。「娘が強姦された」という喩えもあるようです。

日韓基本条約は締結までおよそ12年にわたる長い交渉がありました。何度目かの交渉の席上、びたすら併合時代の被害を述べ立てる韓国側代表に、日本側の主席代表だった久保田貫一郎外務相参与（当時）は、「日本の朝鮮統治は鉄道や港湾を作り、農地を整えるなど、多くの利益を朝鮮人にもたらした」と発言し、結局これが原因で交渉は一時決裂するのですが、時の岡崎勝男外相は彼を更迭^{こうたう}するどころか「当たり前のことを当たり前に話しただけ」とこれを擁護し

ています。昔の日本には、大臣にも外交官にもずいぶんと腹の座った人物がいたものだと感心してしましますが、当然ながら、韓国国内はこの発言にひどく感情的な反応を見せました。

『日本語の正体―倭の大王は百済語で話す』（三五館）などのトンデモ歴史本の著作で知られる漢陽大学元教授の金容雲氏（キムヨンウン）は久保田発言をこのように表現しています。

《たとえていうならば、だいに育てられた箱入り娘を手籠めにし子どもを孕ませた痴漢が、あつかましくも「よい種を孕ませたからありがたく思え」とぬけぬけといい張るのと同じようなものだ。》（金容雲著『韓国人と日本人』サイマル出版会）

日韓関係は人間臭い関係

私が無知なだけかもしれませんが、たとえば、「英国がマレーシアや香港をレイプした」「スペインが南米諸国を犯しまくった」という喩えを聞いたことがあります。いわんや「イングランドがアイルランドを手籠めにした」という表現も知りません。「ドイツがオーストリアを強姦した」わけでもなく、「新羅が高句麗や百済を強姦した」わけでもないようです。日本は朝鮮半島からの渡来人が作ったと主張してやまない韓国の歴史学者が「弥生人が縄文人をレイプした」あるいは「百済が倭を陵辱した」と言わないのも解せない話です。

韓国人の意識の中に、歴史において、とりわけ「日韓併合」だけを強姦に喩えたい。何かがあるのではないのでしょうか。

私は、日韓関係、ありていに言えば、両国を結ぶ反日と嫌韓（あるいは媚韓）の関係を、エロスが介在する特殊な関係であると思います。愛憎と表現してもいいのですが、それだと今ひとつニュアンスが伝わってきません。あけすけな言葉で言えば、変態関係です。

本書は、性衝動、リビドー、エロス、というキーワードで、倒錯した日韓関係を分析し、日本と韓国を論じるという、たぶん他に類例のない本です。大学の教授でもなく、国際派のジャーナリストでもない、元マニア成人雑誌のライターの視点から書かせてもらいました。

変態は人間臭い世界です。変態は人間の縮図です。言い換えるのなら、日韓関係はかなり人間臭い関係ということなのかもしれません。

いい年して親離れ、子離れのできない親子がいます。彼らをよく観察すると、何がしらかの共依存関係にあることが理解できます。いつてみれば、親子というカテゴリーにおける変態関係です。このタイプの親子では「美空ひばりと母親・喜美枝さん」のような生産性のある仕事を成し遂げるペアは極々希少な例といつていいでしょう。多くはお互いの欠点によりかかった退行的な親子関係に終始します。

親離れ、子離れ、の大切さを説くように、日韓両国にも、いい意味での韓国離れ、日本離れ、が必要だと進言したいのです。21世紀はそのよきチャンスであると思います。

目次

まえがき 日韓関係は変態関係である…………… 2

第1章 反日のエロス…………… 13

日韓関係とS M共依存…………… 14

反日のボルノ作用…………… 29

韓国なりすましと「太陽がいっぱい」…………… 47

第2章 のたうちまわる愛…………… 65

反日と恨日…………… 66

ストロング・ 코리아 とチキン・ 코리아 / 分裂する韓国イメージ…………… 86

キラー被害者・韓国…………… 94

第3章 愛と呪いの国…………… 101

呪いのワンダーランドと韓国のスピリチュアル文化…………… 102

具象の王国…………… 130

恨の宗教裁判…………… 144

第4章 反日韓国は日本が作った…………… 155

K 係数について…………… 156

抗日英雄はメイド・イン・ジャパン…………… 163

踏みにじらなかつたから恨まれている日本? / 逆説の日本植民地支配史…………… 190

あとがき…………… 217